

## 《疑義照会と薬歴管理の実践コーナー》

## A. 処方箋チェック・疑義照会

## 2. ヌーカラ投与によって喘息症状が和らぎ、経口ステロイドの投与が中止された

## 1) 処方箋内容

<処方 1> A 病院、呼吸器内科（前回までの処方）

シムビコートタービュヘイラー 60 吸入	2 キット	1 日 2 回	1 回 4 吸入	
オノンカプセル 112.5 mg	4 Cap	1 日 2 回	朝夕食後	14 日分
テオドール錠 200 mg	2 錠	1 日 1 回	就寝前	14 日分
プレドニン錠 5 mg	2 錠	1 日 2 回	朝夕食後	14 日分

<処方 2><注射処方箋（院内）>（お薬手帳の記載）

ヌーカラ皮下注用 100 mg	1 本
日局注射用水	1 本
1.2 mL に溶解し、1.0 mL を皮下注射（上腕部）	

<処方 3>（今回の処方）

シムビコートタービュヘイラー 60 吸入	2 キット	1 日 2 回	1 回 4 吸入	
オノンカプセル 112.5 mg	4 Cap	1 日 2 回	朝夕食後	14 日分
テオドール錠 200 mg	2 錠	1 日 1 回	就寝前	14 日分

## 2) 患者基礎情報

患者は 39 歳の男性。難治性の喘息を患っているため、半年前よりヌーカラ皮下注用<メポリズマブ>を使用し始めた（処方 2）。ヌーカラの他にもステロイド治療を行っている（処方 1）。ヌーカラによって喘息症状が和らいだ旨を医師に告げたところ、経口ステロイドの投与が処方中止となっていた（処方 3）。

## 3) 処方箋チェックのポイント

## ① 何をチェックする？

ヌーカラ皮下注用による治療中に、急にステロイド治療が中止されていないか。

## ② 具体的に何が問題か？

ステロイド療法の一般的な注意事項として、長期投与されているステロイド薬の減量が必要な場合には、症状の悪化が生じることのないように十分な管理下で徐々に行うことになっている。したがって、症状が改善したからといって急にステロイド薬を中止してはならない。

## ③ 疑義照会プラクティス

「ヌーカラ皮下注用を使用している患者さんで、今回経口ステロイド薬が中止になっているのですが、長期ステロイド療法を受けている患者は急にステロイド薬を中止してはいけないことになっています。いかがいたしましょうか。」

## 4) プレアボイドと処方変更

医師はステロイドを急に中止してはいけないことは認識していたが、減量するつもりで削除してしまったとのことであった。疑義照会の結果、経口ステロイドの量を減量し、様子を見ることとなった（処方 3）。

## &lt;処方 3&gt; (疑義照会后)

シムビコートタービュヘイラー 60 吸入	2 キット	1 日 2 回	1 回 4 吸入	
オノンカプセル 112.5 mg	4 Cap	1 日 2 回	朝夕食後	14 日分
テオドール錠 200 mg	2 錠	1 日 1 回	就寝前	14 日分
プレドニン錠 5 mg	1 錠	1 日 2 回	朝食後	14 日分

## 5) 処方チェックに必要な情報

重要な基本的注意

長期ステロイド療法を受けている患者において、メポリズマブ投与開始後にステロイド薬を急に中止しないこと。ステロイド薬の減量が必要な場合には、医師の管理下で徐々に行うこと。

(<⑨ 重要な基本的注意にはどのようなものがあるか> 参照)

## B. 服薬指導・薬歴管理

## 2. ヌーカラ皮下注用投与後に頭痛を訴えた患者

## 1) 処方箋内容（院外処方）

<処方 1> A 病院、呼吸器内科、9 月 23 日

アドエア 500 ディスカス 28 吸入用	1 キット	1 日 2 回	1 回 1 吸入	
オノンカプセル 112.5 mg	4 カプセル	1 日 2 回	朝食後・夕食後	14 日分
テオドール錠 200 mg	2 錠	1 日 1 回	就寝前	14 日分

<処方 2><注射処方箋（院内）>（お薬手帳の記載）

ヌーカラ皮下注用 100 mg	1 本
日局注射用水	1 本
1.2 mL に溶解し、1.0 mL を上腕部に皮下注射	

## 2) 患者基礎情報

患者は 45 歳女性。難治性喘息の診断を受けており、今回から院内でヌーカラ皮下注用<メボリズムマブ>の投与が開始された（処方 2）。患者が帰宅後、頭痛の症状を訴え、薬局に電話をかけた。

## 3) 薬歴管理プラクティス

## S Subjective data（主観的情報）

なんだか頭痛がするんですよ。今日打った注射のせいかしら？

## O Objective data（客観的情報）

本日、院内でヌーカラの投与を受けている。  
頭痛を訴えている。

## A Assessment（評価）

副作用として、5% 以上の頻度で頭痛が認められている。

## PA Pharmacist Action（どの様に行動したか）

患者には、ヌーカラ皮下注用の副作用として頭痛が高頻度で出現するので、その可能性があることを伝えたが、病院でヌーカラ皮下注用の副作用が出現した場合の対処法を決めているかもしれないので、早急に担当医または病院薬剤部に相談するように伝えた。当該薬局から病院に連絡することを提案したが、患者は自分で連絡するとのことであった。

## P Plan（計画）

その後の経過を確認

## 4) 服薬指導に必要な情報

## 副作用

その他の副作用として頭痛が報告されている（263 例中 14 例）。

（<⑧ 副作用にはどのようなものがあるか> 参照）

現在、ヌーカラに由来すると考えられる副作用発生時の対処法は決まっておらず、各医師の判断に任せられている。

（メーカーによる回答）